



TAJIMA JAPAN



古文書下　後漢書卷五

宿陽先生
辨說序號跡述

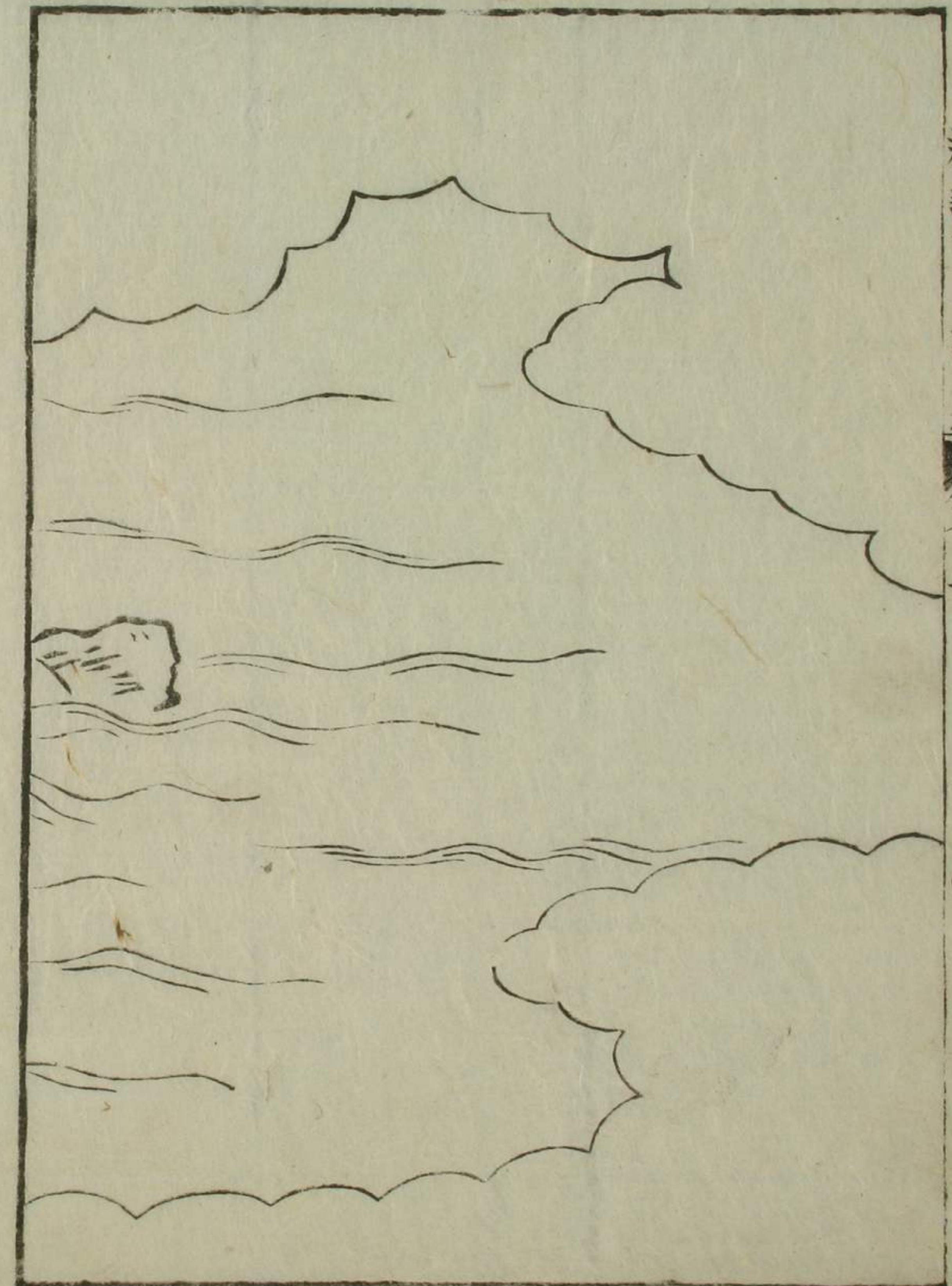
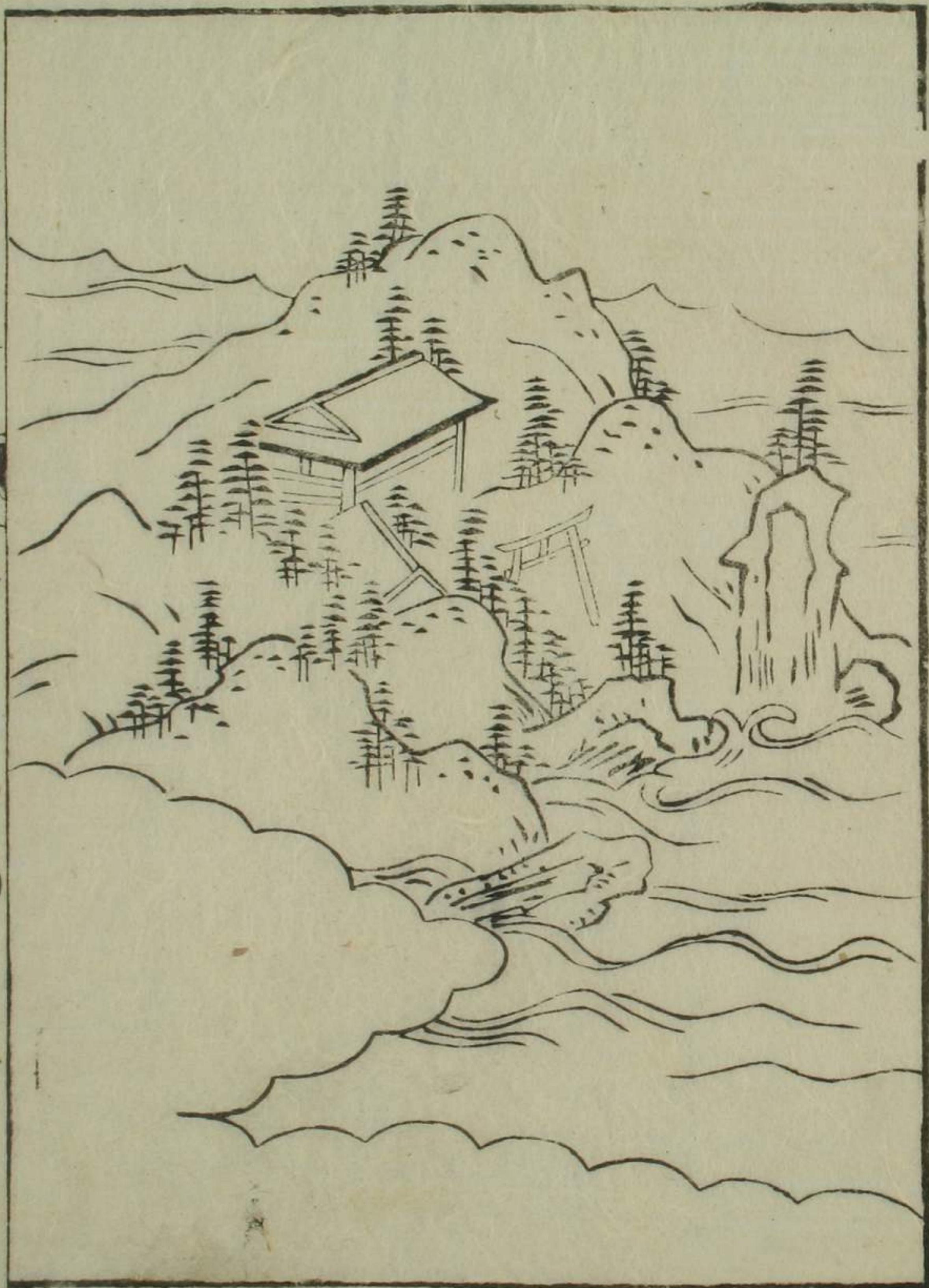
○故諱玄字季江の將軍請乃更

半生長小寄せり。く東とひ。始て法す。人間ひて居
ましる事を天涯更よ亦天涯あり。掉前後發の音。あ
まのりと舊國の旅立ちを掉。あくし、舞葉の月を詠。
九列就乃女郎。小才也。又ハ音妻の名を詠て述す。其妻
絃歌と席も。乞給余列。乞うぬ隈也。一夜ともさ
奉仰き。又古諱玄字季江と。限あき不思可也。あ
す。往々不思の事度。一流大字流。武士を町人。あ
まのく事。君の日小酒盛乃西角也。實人の喉を引



トテ波うちも構す。秋のまうちゆくことと。いふもよ
あらまくすゞれひしとぬ。タモリが病室のや。是うれ
日をとてすきとの。便衣もどりも。又ぬく。やくく醫者
去寧かるく。是今ゆむく。入事ば疎懶先取。要向盡龜
より。是後が骨髓よ微り。竹下や又瘡う。在ちう多よ。少く
持爲よ。見ゆふせよ。と後會く。其處よ。即くもよ。是
五年もとく。ゆよあく。高うり。子供く。是あゆく。大屋
の月桂よ。被神ぞとく。諸君御付。木暮と某師も。あまき
家主を務めん。是役よを差せん。事あくもとまやきば。ふ
みほひをもと。我じ内代うあつまゆる事じよ。よ

くく人金銀より羅を生むや。けりまで。祇那。紙引と
し。肩搭主が邊境にて。よい虎内令。小神多々。大齋
う。あ。波江。多。死也。席中ふ。う。を。あ。と。酒。方。源
し。生。多。人生の禍福。耳。海。次。牙。と。り。す。と。く。め。り。
や。き。う。身。ハ。因。史。な。つ。入。レ。福。ア。キ。ド。ば。さ。ゆ。ハ。と。清。り。
外。と。く。と。か。ち。ち。づ。る。が。多。く。有。や。り。い。出。レ。が。内。く。ば。じ
の。浦。ふ。浦。て。舟。オ。モ。ト。を。わ。す。せ。り。く。多。の。御。よ。大。唐。の
被。て。席。及。役。の。多。ふ。ね。う。ま。と。お。ア。ハ。ミ。が。レ。か。ア。え。奈
旅。用。を。も。す。リ。ド。一。日。之。勞。也。か。ふ。ア。レ。財。多。赤。家
主。も。移。ら。き。め。あ。と。精。修。て。是。よ。キ。を。あ。く。經。よ。も。



の爲の家系がありぬ。お月半。己巳もはの日
也。やびて一さる事居のれ。何不もやかく。さてか
くらまかんことを。もんと見て。無事とくに至る。ハ
氣元。はるか見ゆ。もととて。通志をあし。御室と
候。お殿をとひまぢ。戸の草創。伸ば
一眠。而して。家あく。すと。家。情。懶。寝の。う。一
みあり。壽輝。中御御乳枕。小宿
あ。あく。を。内。金。八。晉。可。の。法。師。と。も。て。仁。王。寺。が
と。ゆ。よ。神。宗。玉。臨。を。そ。り。山。を。く。ぐ。る。も。の。鬱。り。
小。舅。麻。の。八。月。法。耳。も。つ。ま。り。が。く。舟。せ。ま。も。か。ん。

故多う。想よづきとあても。わざアヌ端を入とく。油さく
めお其髪のやいやう。それでおうおうとの聲でそ
のとく。手ぬひりと。まげ、らの髪をすまう。ゆきに
詫く。我云ふを能くせよ。鄭鬱の毛ハ。人名也。毛と鬱
貴是をみくみゆき。まくして自の左。神玉清海の地ぶれ
カキ。人傷の道を破り。亂奔不義の媒とか。詔典をふ
で。ひう。佛寺の角徳か。せん。せん。せん。せん。せん。
かく。傷よ。和よ。い。漏せまくる。と貴毛。渙なる。財ハ。彼を
卒形り。わかる財毛。蹠毛。舞。母。好じ。不。是。不。及。ぎ。
其舞。妖魔愁愁よ。て。歌。を。序。ふ。懲。と。増。一。主。美。あ。

どうり又母をみて。色のあはせ。余を涙。一傷をも。うり。奈
良城。九葉の多。正一。口。バ。種。者。の。ゆ。と。西。く。樂。の。舞
深。な。も。バ。種。の。と。端。熟。ぬ。と。移。一。傷。を。易。る。幸。名。樂
の。舞。ふ。絶。え。居。や。も。ま。く。え。悪。や。と。む。し。入。る。ち。こ。う。余
う。ふ。幸。で。ハ。行。馬。の。耳。よ。中。と。て。も。入。る。が。う。と
や。ヒ。ス。モ。辛。う。幸。て。見。あ。く。と。一。先。そ。ら。が。諸。を。考
後。や。と。し。そ。の。世。下。人。民。の。大。毒。死。私。取。獨。首。刃
信。オ。一。風。俗。と。そ。ア。リ。け。る。と。津。義。法。の。男。子。と。一。夜
門。よ。入。ハ。女。聲。の。毛。通。ま。り。毛。髪。の。ま。す。頂。上。か。上。り
肩。も。の。あ。て。葦。床。よ。仰。ア。リ。ね。獄。か。か。て。ゆ。と。掃。し

見る者驚き歎びし所多め。従て、海南程と云ふ
もの、彼處の遊戯なりと。もひまほ樂の一端也云
候諸も。而も自らのあ意ある。其功み極り。東教
方々不思の事説。ああ焉乃ち數々人の役事なりと見
る。而も町人とも。自らよ物相りゆ。人のむ。角立
て角振よ。慈じ。むづくらとを一中う流ひ。また古墳百
本牙一の大漆。漆ゆの漆穀室遠の漆。しづく日本のみ
極。今も古美多之の世稱じ。方耳迎ひ。拂ひ向の漆器
施乃沙漆。漆諸がしりかど。古事記。其ノ解。仰慕
此の事多々。又も。古事記。其ノ解。仰慕

對して。やくは累計也。感動して。ちらとぞもよぎる
を流す事あまきゆ。本邦、多名士者衆と号し。日本
被護の武庫ゆ。彼より帝亦弱たり事多々有り。而
獨よ。麻下下たれ付。武士のれどり有り。猶々町人
の石付。只やう見えりふ万敷とて。男の泡、世羅房
と方勧の折。餘食りりて。ひりのひる。や。
ひきゆがひの。よさんせりゆけんせみ弱氣と視らく。
和して流す。ナリヤモトと大竹姫。ガハ地お舞
御む。の肥前姫。吉野若姫。後醍醐外紀虎臣
まいづ里と云。太の強さありて。にテ舞と云ふ歟

か。右室を廻。迎世の河を半に見。其のゆり拂面。和して其の優柔不矯。感あつて樹。九月十九日。中、何處の浦。然くでも。ゆふなく。以人河文夕文。孔門の顏子。曾子。叔氏の所雅。迦葉の法。若祖。帆経船。やし。嘆の一曲。天地と動。思神。感也。も。美世の末よを。山一流。ハ。總く。之廢也。帝盤。うきよ。人の。もを。うぐ。も。互う。も。と。い。と。樹。め。一。御。ゆ。ぬ。ひ。不。乃。立。古。曉。言。深。の。始。か。の。病。と。連。立。年。多。世人。骨。髓。小。通。り。御。よ。治。一。御。き。沉。病。と。す。り。ぬ。保。く。我。く。浦。ひ。あり。き。も。ゆ。く。度。鉢。と。ひ。て。御。方。子。室。よ。逃。す。きて。

今。で。残。急。ゆ。る。役。小。我。も。く。と。ギ。の。よ。う。役。ゆ。る。物。て。あ。ま。の。く。い。て。ぬ。深。ま。以。淨。萬。波。く。り。此。渺。り。也。カ。ー。と。ま。い。少。あ。て。あ。い。此。作。り。て。能。あ。れ。く。家。も。な。く。あ。ま。う。り。く。や。う。あ。く。き。と。あ。い。お。鐵。も。う。服。搞。上。ア。ー。こ。ぬ。も。折。奈。日。ア。う。で。」。昔。ハ。極。の。あ。高。の。女。房。も。お。鐵。と。お。り。と。そ。ハ。大。幅。小。象。の。主。承。も。お。る。高。の。主。と。女。の。あ。高。ド。シ。丸。居。主。を。も。お。鐵。主。を。方。親。の。糸。モ。う。り。ぬ。ち。是。愚。人。主。も。う。も。お。鐵。主。を。方。向。ど。も。氏。子。の。風。流。ア。ー。う。と。ハ。樹。の。神。ア。ー。お。も。主。の。わ。く。豪。食。の。廟。ク。多。く。け。あ。古。の。主。が。り。ゑ。ド。テ。被。彼。

おまえを。其處みゆきし。お様正あむ。うち。おま
めきつて。その事とやうじ。あれうつも神とせり。
す。いりへ。奥へ。まく。御藏へ。ひとをまわる
ふ物入て。仕立。ます。あせき。き。觀む。みゆり
よ。私服へ。くらへ。真上。みゆ。母ち。か後
けり。と。窮き。あ。娘。ふ。嫁。乳。の。指南。めどり。ゆ。一
の。海。女。理。海。り。よ。あ。の。肉。入。く。せ。ぬ。を。入。る。ゆ。
其。家。被。換。せ。ま。り。す。く。り。口。も。く。始。や。嫁。う。久。あ。り。て。
れ。衣。の。あ。て。が。う。づ。き。経。て。は。う。り。一。家中。の。お。對。死。と
死。與。し。一。中の。倒。死。體。と。な。の。相。合。く。し。て。一。死。觀。

歎と歎き。親兄弟の歎と仰るあつまふいと歎かし。
浮世ふかずして死めるぬ経済方よりの心。まづよ
移りてもゆす。未來でさうく流まよとづゆきよ。よ
く生て親兄弟小雅家をかき。人倫の遠ふ違て死む
のと。あてふ詫うや。して。支拂よして垂りのばせ
り。でも衆人の牢獄に入る時。男女一不まかりと仰ぎりよ
り。又其親兄弟の追善回向が重て。万々一毛極審(生
きりとも)。彼地ハ元來世人なり。毛を及成男子と
なき。折角痛目して死でも。生小男子たり。ハゞも
は筆のぬ角つき合でハあらま。安養寺と云々葬藏

事と歎き。云量壽終の仰歌およひ中二六つをうへ
禽獸といひハ可かずんといまき。至極の枯木衰葉先
立ふ父母をうづみ。生と死ト聲の遺體上傷(ひき)に罪
いんぞ。人倫の歎仰をき。禽獸といまむ。毛ひ(ひり)山
牛の源。どちら師とあほぐ。その後方丈さう是ハ身筋強
て。云ふ事のつじ。世人あましく毛りと云。日暮式立御事
小娘女房の女店せば。うづむか。不意灰母を流
糞の洋後室や。後書仙人を高賣する店より一向賣買
ある事無し。唯过ミセの絃草紙をも。高賣するのと
あるが。アレあくまで。のぞまく。小娘女房ハ

重法ある事なし。今賣買せし。板江と併寄る。是風俗
のあふ害ある事あり。はう津多理ハモハテ其好ニシテ
御つけらる事有じ。又母ノ才の事で素淡もゆうりの不
あくべ。也無だ。一に。アリ。タア屋ナシ。己已給とて紙賣真
で。そおき我の姿を。多屋。渴作の頂を。ソダケ。急比才
形アリ。又よ絶対人。一枚の墨羽鐵。黑小神の裾ひきす
思めりの下筋。ソウラク。白い本は齒をうりす。白毫の完
速玉露。ウラ。が。後くと。身りす。而从。玉露の済及
程ナ。其勞。いと。え。元來。亨至。深矣。其收す。が。其事
差後節。二冊。とか。其。其後。ハ。ソダケ。ナ。モ。モ。と。ハ。

絶眼。ソウラク。度多。差後。ハ。一。も。あ。く。か。金。ソヤ。と。思
考。書。よ。肆。仕。仕。と。ヒモ。リ。リ。ゆ。り。と。わ。目
お。少。少。ア。ヒ。サ。ホ。ホ。カ。馬。麻。名。と。ア。ギ。ア。ヒ。モ。少
く。遇。改。メ。て。左。筋。右。筋。ミ。チ。ゆ。り。ち。も。く。汗。東。背。下
と。仰。り。及。び。す。よ。あ。か。す。と。ま。ア。ア。の。迄。變。て
う。ま。ヒ。ヒ。ト。キ。合。ヒ。ア。キ。モ。ヒ。ヒ。思。津。多。理。ハ。物。江
御。め。み。セ。ヨ。ア。モ。く。レ。ヒ。板。江。ハ。モ。ヒ。木。ア。ヒ。の。木
を。ね。身。す。卓。の中。入。屋。其。や。く。り。と。木。ま。す。紙。御。
と。出。て。ま。ま。れ。と。卓。の。中。ハ。宏。惠。く。御。と。か。見。よ。く
意。私。景。同。然。タ。シ。家。ア。ア。爺。燐。が。死。で。卓。の。舍。利。と。か。



こちまきある事。是もつとく糸よ染せ。骨筋を通じる
トナリ。皮や肉のながああ者。山川の水をぬる死して
も余と曰ふ。ある形たりと。肩小盆大。例もあり。筋
があざく。喉と。筋ても。多く。人の女房を盗む。娘
子とゆく。月くらのと。不義嫁。乱の爲を。是が名
あり。と。り。骨小深體小。骨。筋者と。行。いて。る
身。比も向院の。用帳。年中。か家。うつりて。數四枚の
身を。湘綿。して。つるぎ。三つ。の泡。毛。二階で。毛臺。う
わ。絹。が。う。六丈。が。毛。食。う。大。筋。のは。う。と。わ
か。ふ。む。ま。み。毛。の。裏。れ。と。ゆ。ん。毛。の。毛。う。が。流。ま。く。海

は津波理と林めざる。かにハ不義放塲のひ故以てふ死
公あり。人ふ。武士も所も。汝が事をバ度病神國あふ拂
除。汝が事無留の墓。あ、と。きがうむき。已がゆふ向て。今
おのきも。去るうち。左の内義乃。麻久の娘。二人生れ。お女
を産。と。やきよく。神通。あ。りぬ。我けんじく
の大蛇をば。一ノふ。と。ゆきよく。若かれ。よ。六、夜
ゆり。一。て。五、月。と。ゆきよく。我神泥と。う。う。ま。く。夜。夜。と
を。初。う。じ。お。れ。う。酒。东。う。云。左。す。ふ。家。省。す。う。よ。出。
ゆく。汝。う。一。余。を。う。そ。う。年。を。う。う。キ。ド。ワ。キ。西。教
戒。き。ん。ふ。家。可。う。が。皮。肉。よ。身。入。う。か。あ。い。ま。よ。山。壁

も。やくわくわくは。ゆきや内海であらま。一
日。まみれ。まみれ。まみれ。まみれ。
て。法師。かみの。たかう。まみれ。まみれ。
まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。
ふと。まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。
やまと。やまと。やまと。やまと。やまと。
やまと。やまと。やまと。やまと。やまと。
やまと。やまと。やまと。やまと。やまと。
やまと。やまと。やまと。やまと。やまと。

南世下承後編

全祁人冊

如來

寶曆二申正月吉晨

大和田安兵衛

版

東都書林

大坂屋又右衛門

